防災ふちゅう

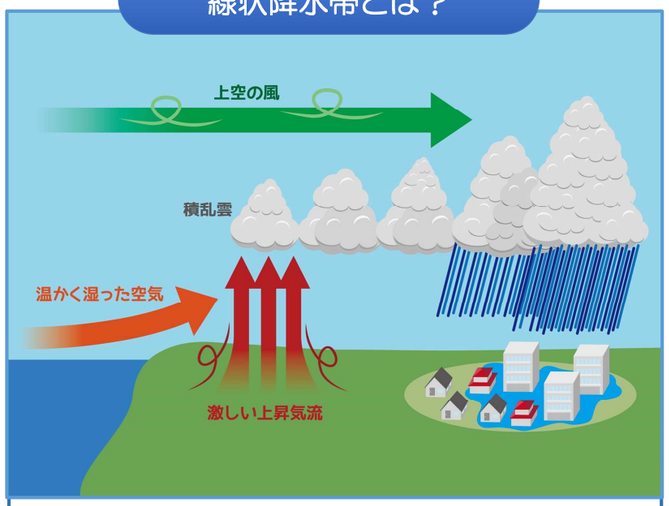
第５号　2025 年 6 月

府中地区まちづくり協議会
〒503-2105
岐阜県不破郡垂井町新井 709-4
tel/fax：0584-23-2002
e-mail:fucyukou@town.tarui.lg.jp

雨の季節がやってきました！

昨年（2024 年）は各地で台風や大雨による被害が発生しました。垂井町でも 8 月 31 日の未明から激しい雨が降り続け、栗原地区の一部に警戒レベル４、府中地区においても警戒レベル３が発令されました。
また、**6 月から 11 月の期間に 19 事例の線状降水帯が発生**し、日本各地に大きな被害をもたらしました。
*自分の命は自分で守る*という意識を持ち、台風・豪雨災害に備えましょう。

線状降水帯とは？



線状降水帯のメカニズム
①低層を中心に大量の暖かく湿った空気の流入が持続
②局地的な前線や地形などの影響で空気が持ち上がり雲が発生
③大気の状態が不安定で湿潤な中で積乱雲が発達
④上空の風の影響で積乱雲や積乱雲群が線状に並ぶ

次々と発生する雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ 50～300km 程度、幅 20～50km 程度の強い降水をともなう雨域を**線状降水帯**といいます。毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。

「顕著な大雨に関する気象情報」
「顕著な大雨に関する気象情報」は、大雨による災害発生の危険度が急速に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。この情報は**警戒レベル4**相当以上の状況で発表されます。情報が出たら、土砂災害警戒区域や浸水想定区域など、災害が想定される区域にいる人は、自治体が発令する避難情報に従い、**直ちに適切な避難行動をとって**ください。
（この情報を待つことなく早めの行動を）

キキクル（危険度分布）を活用しよう

キキクルは、大雨、土砂災害、浸水害、洪水による災害発生の危険度の高まりを地図上で確認できる「危険度分布」です。活用することにより災害から自分自身や大切な人の命を守ることができる情報です。気象庁のホームページで公開されているほか、アプリをダウンロードすればスマートフォンなどでも確認することができます。

あらかじめ登録しておいた地域で災害の危険度が高まった場合や警報が発表された場合にスマートフォンなどに自動で通知を受け取ることができます。
何も起きていない平時から通知サービスを登録しておき、いざというときの避難や防災行動の判断に役立てましょう。

出典：内閣府防災庁・気象庁ホームページ

避難情報

高 ↑ 危険度 ↓ 低

警戒レベル	住民が取るべき行動	避難情報等
警戒レベル 5 命の危険 直ちに安全確保	**既に災害が発生・切迫**している状態です。命が危険ですので直ちに身の安全を確保しましょう。	**緊急安全確保**（市町村が発令）※市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル５は必ず発令される情報ではありません。

!!!!!〈　警戒レベル４までに必ず避難！　〉!!!!!

警戒レベル 4 危険な場所から全員避難	災害が発生する危険が高まっています。**速やかに危険な場所から避難先へ避難**しましょう。	**避難指示**（市町村が発令）
警戒レベル 3 危険な場所から高齢者等は避難	**避難に時間を要する人（高齢者、障害のある方、乳幼児等）とその支援者**は危険な場所から避難しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	**高齢者等避難**（市町村が発令）
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの**避難行動を確認**しましょう。	**洪水注意情報 大雨注意情報等**（気象庁が発表）
警戒レベル 1	災害への心構えを高めましょう。	**早期注意情報**（気象庁が発表）

台風・豪雨に備えて ハザードマップを開き 事前に 確認しましょう

避難行動判定フロー
あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう

ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります

家がある場所に色が塗られていますか？

- いいえ → 色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにすんでいる場合は、自治体からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください
- はい ↓

災害の危険があるので原則として立ち退き避難（自宅の外に避難）が必要です

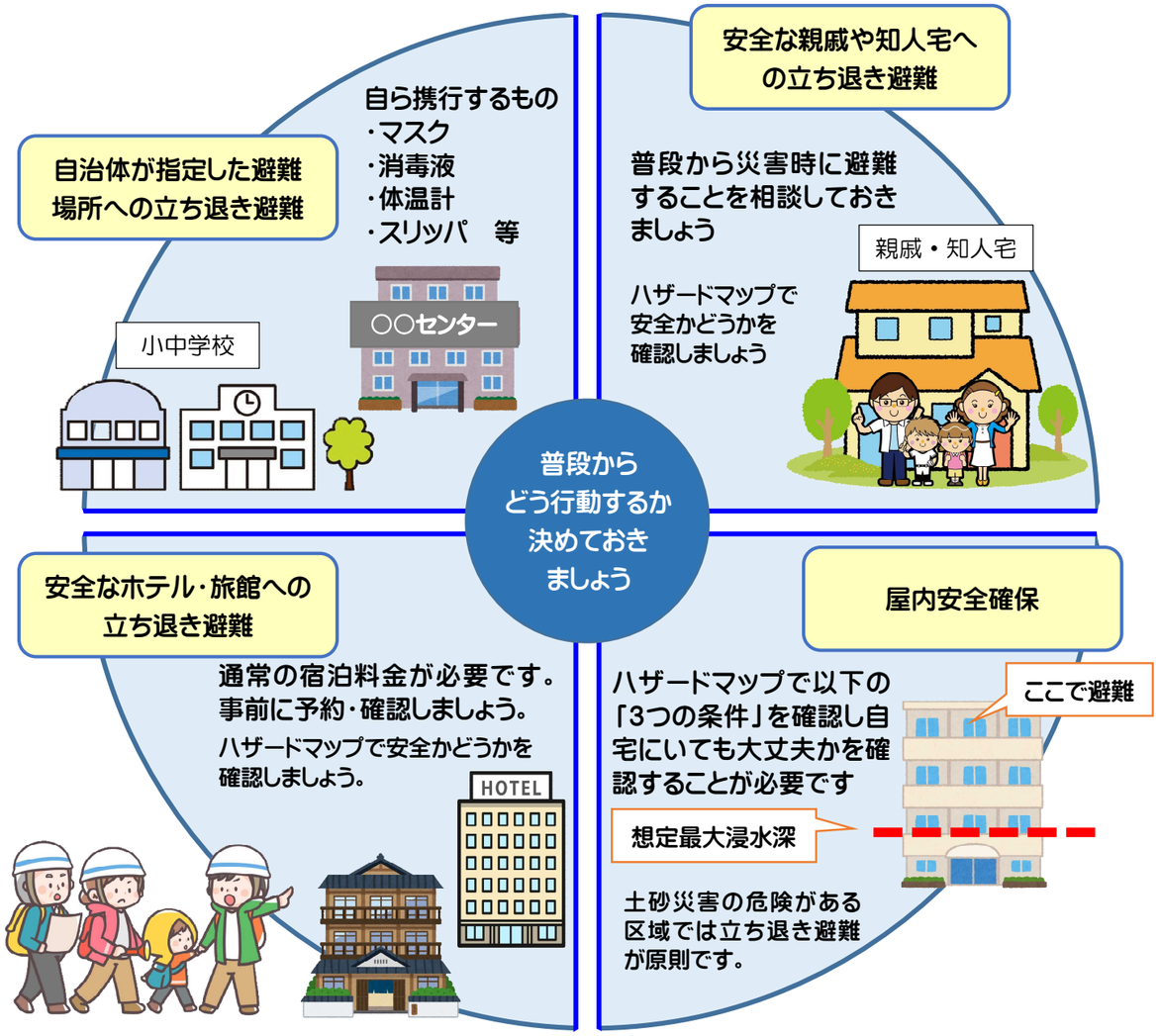
- 例外 → ※浸水の危険があっても、
  ①洪水により家屋が倒壊または崩落してしまうおそれの高い区域の外側にある
  ②浸水する深さよりも高いところにいる
  ③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある
  場合は、屋内安全確保（自宅に留まり安全確保すること）も可能です

自身や一緒に避難する人は、避難に時間がかかりますか？

- はい ↓
  - 安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？
    - はい → 警戒レベル３高齢者等避難が出たら安全な親戚や知人宅に避難しましょう（日頃から相談しましょう）
    - いいえ → 警戒レベル３高齢者等避難が出たら、自治体が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう
- いいえ ↓
  - 安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？
    - はい → 警戒レベル４避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう（日頃から相談しておきましょう）
    - いいえ → 警戒レベル４避難指示が出たら、自治体が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう

普段からどこへ避難するか決めておきましょう

避難とは「難」を「避」けること、つまり安全を確保することです。小学校や避難所に行くことだけが避難ではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えましょう。



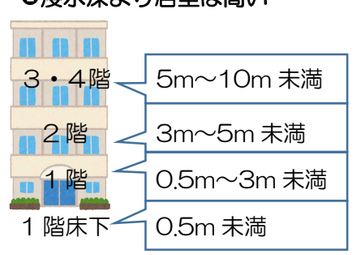
「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

❶家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない

入っていると…

- 速い流れで木造家屋は倒壊するおそれがあります。
- 地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります。

❷浸水深より居室は高い



❸水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分

十分じゃないと…

水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります。